

令和元年8月22日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 11時50分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 山内 みどり
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	岡野 敏彦
○	教育委員	原 道子
○	教育委員	山内 みどり
○	教育委員	渡辺 優子

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|--------|
| 教育部長 | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 生涯学習課長 | 小島 孝紀 |
| 教育総務課指導班長 | 寺口 瑞紀 |
| 教育総務課教育総務班長 | 竹本 直昭 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 込山 久美子 |
- 7 傍聴者 2名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 込山 久美子

1 開会宣言

(教育長) 令和元年度8月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

山内委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 8月政策会議報告を資料に基づいて行う。

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明を行う。

4 付議事項

(2) 議案第18号 二宮町教育支援委員会委員の委嘱について

(教育総務課長) 二宮町教育支援委員会委員の委嘱について資料に基づいて説明

意見等なし

(教育長) 委員に議案第18号について諮る。

委員全員賛成により、議案第18号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について

(教育総務班長) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について資料に基づいて説明し、9月上旬までに提案等を提出していただくよう委員に依頼。

(2) 二宮町小中一貫教育校設置計画(案)の今後の対応について

(教育総務班長) 二宮町小中一貫教育校設置計画(案)の今後の対応について資料に基づいて説明。

○(教育総務課長) 今教育総務班長から、アンケートの集計結果について説明がありましたが、意見交換会について総括して振り返ります。まず、意見交換会のあり方そのものについて、対象となる未就学児の保護者の意見を聞くべきというご意見がありました。意見交換会の場でも回答しましたが、未就学児の保護者を対象とした意見交換会を今後開催します。また、子どもの意見を聞くべきというご意見もありました。

小中一貫教育そのものについて、多かった意見として、メリット・デメリットを明確化してほしいということ、教員の負担、教員の配置はどうなるのかと心配する声がありまし

た。小中一貫教育を実施した場合の具体的なイメージがもう少し見えると良いという声もありました。

学区や設置場所についてですが、今回、学区を動かさない案を示しました。しかし、場所より学区を動かした方が良いという意見が多かったように感じます。また、通学方法を検討してほしいという意見もありました。学区については、現行の3小学校区に1校は残さなくてはいけないのではないかという意見が、最も強かったと感じています。

地域とコミュニティ・スクールの兼ね合いはどうなるのかという意見もありました。

施設面では、新設校を建てる計画はないのか、校庭・体育館の広さは充分なのか、小中学生のすみ分けはどうなっているのか、現在の施設の老朽化しているという指摘、空いた学校施設をどう活用するのか、役場を含む公共施設の再配置との兼ね合いが見えないというものがありました。

ほかに、学童と部活動、放課後の遊び場との兼ね合いはというものもありました。

次回の意見交換会を実施すること踏まえて、本日の意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

- （岡野委員） 町民の方からの意見として「今の小学校区の3校を残したい」というものがありました。今持っている選択肢として、新設校を1校作るというものから、2校になる、3校になる……とあるわけですが、学校の数が4校または5校になる選択肢も排除できないと思います。それぞれのメリット・デメリットを横並びで精査して、何が一番のキーになって、その案が有力だったり非有力だったりするのかということを経査すべきだと思います。

もうひとつ、これは生産管理でもそうですが、クオリティ、コスト、タイム、この三点セットで行われて、評価していくことが必要だろうと思います。

- （教育長） 各学校で意見交換会を開催して、町民の方の様々な意見を聞くことができ、非常に参考になりました。教育委員会の案を無理強いするのではなく、「どういう形が一番いいのか」考えていくことを、これからやっていかなければなりません。

いただいたご意見は本当に様々なものがあって、2校という案についても、今回町を南北で分ける案を出しましたが、分け方を東西にするとか2校の案でも違う形が考えられるわけです。あるいは、小学校だけを集めたらどうかというご意見もありました。

先進自治体の事例を紹介して、小中一貫教育の意義はわかっただけでしたし、義務教育学校というあり方にも視点が向いたのかなと感じています。私自身は、義務教育学校は直近の選択肢として考えていませんでしたが、30年40年先の、将来的な選択肢の一つとしては、考慮するものになるだろうと思います。

意見交換会の結果を受けて、もう一度新しい案を提示する場を設けたいと考えます。

- （山内委員） 意見交換会に出て、とても手ごたえがあり、収穫があると感じました。二つありますが、まず、第1回目としては良い意見交換が出来たと思います。やはり、説

明会ではなく意見交換会という名称にしたことが良かったと思います。参加者はシニアの方が多かったですが、町民の方も、この町の魅力を出すこと、町に人口を呼び込むことを考えていると感じ、質問もたくさん出ました。その結果、案をどのくらい変えることが可能なのかという事を、しっかりとお示ししなければならないと思います。

もうひとつは、現場の先生が置き去りにされていないかという懸念を持ちました。8月9日には、小中学校の先生を対象に研修会があり、そちらも参加させていただきました。出席者の先生方のお話を聞きまして、町の舵取りの方向が現場の先生に浸透しきっているのだろうかと感じました。現場の先生に意見交換会に出席していただくような提案はあったのでしょうか。

- (教育長) 教職員については、会場の都合もありますから、意見交換会への参加は求めませんでした。意見交換会でも流した、先進事例を説明するDVDをお借りしましたので、現在学校で回覧しています。

現場の教職員の受け止め方ですが、研修会当日のワーキング・グループの様子を見て、現場の意識は高いと感じました。例えば、今後は教科書採択についても、小中学校の連続性を大事に選んでいかなければならないのではないかという様な意見も出ていました。

意見交換会で紹介した自治体と二宮町では町の状況等が異なるところもあります。県の教育委員会に確認しましたところ、比較的近隣では、静岡県内で規模の近い小中一貫教育をやっているところがあると聞きました。視察に行けるといいと思います。

未就学児の保護者の意見というものと併せて、子どもの意見を吸い上げてというお声がありました。子どもの意見はどうやって聞き取っていくのがいいだろうかと思っていますが、どうでしょうか。直接子どもにアンケートをすとか、先生や保護者にまとめてもらうやり方が考えられますが、大人の意見が入らない「子どもの立場での意見」というのは、どんな方法があるだろうかと思っています。

- (原委員) 方法の前に、子どもの意見の「どこ」を聞くのかだと思います。説明会で受けた感覚ですが、一番子どもの立場に立って考えていないじゃないかということは、通学方法です。長い距離を歩くことは、子どもの負担になって、学校嫌いにもなりかねないものです。それに対して具体策を意見交換会で示せなかったことに反省があります。

一方で、どんな学校を作りたいか、「夢の学校づくり」というビジョンもあっていいものだと思います。具体案を考える中では、子ども自身の、どういう環境であれば勉強がしやすいとか、自分が疲れずに行かれるのか、そこにはかばんが軽いということも出てくるでしょう。そういう子どもの意見を知る必要があると思いました。文部科学省の2キロ以内という基準がありますが、大人が考えて基準に沿った2キロなら子どもたちを歩いて通わせられるのかというところですね。

子どもたちが日々、何に期待を持って楽しいと感じ、つらいと感じているのか、把握するために、まず、アンケートを実施したらどうでしょうか。集まって話を聞いても「全体の意見」ではないという場合もあり得るでしょう。関心がある家庭の子どもの声だけが、

強く出てしまうことがあるのではないかと思います。意見の集約が難しくなるのではないのでしょうか。

- （山内委員） 私もアンケート方式がよいだろうと思いますが、学校までの道のりのどこが大変だとか、プールがほしいとか、今どういうところが大変なのか、どういうところが不便を感じているのかということは、子どもは答えられると思うんですね。子どもに「小中一貫教育についてどう思いますか」と聞いても、そういうようなことは大人が考えるべきことで、子どもがどういうところが不便を感じているのかを捕らえたいと思います。

意見交換会で、若い世代の保護者に意識の高い方が多いなということを感じました。同時に、そうした家庭のお子さんは、大人向けの話し合いの場にも同席していたりして情報が入っているんですね。役場庁舎の移転についても意見を言ったりする子がいますが、そういう意見ではなくて、状況の把握がよいだろうと思います。

- （原委員） 小中一貫教育校を作ることにきちんと焦点を当てることも大事だろうと思います。集団の学びについて、どういう風な活動を求めるのかも知りたいですね。一色小学校の単級が問題になりましたが、小さな学級をどう思うかも聞いてみたいと思います。参画意識を高めることも大事で、「夢の学校」を総合学習で取り上げるなどしたら、キャリア教育としても意義のあるものになります。

ですが、まずは子どもの目線に立ったデータの収集を考えるべきでしょう。

- （山内委員） 子どもたちは、自分が通っている学校以外の学校の中に入ることがありませんので、自分の通っている学校以外の学校をほとんど知りません。催しものための練習で、学校に行ったときに、初めてほかの学校に入って、「校庭が広くて良いね、転校したいな」という感想を子どもが口にする場にめぐり合いました。他の学校との交流する場があると、新たな視点が生まれるだろうなと思いました。

- （教育長） ちょっと話がそれますが、町民運動場をもっと活用できたら良いなと思っていて、校長先生にも話を投げかけています。子どもが減っていてということであれば、連合運動会というようなことが出来ないかなど。教員の働き方改革にも繋がると思います。

各学校で年間に複数回アンケートを実施していますから、そこに通学のことなど小中一貫教育校に繋がる設問を追加することで、子どもの意見を吸い上げることが出来るかなとも思います。

- （岡野委員） 子どもたちから見た小中一貫教育校がどう見えるかという話ですが、二つあります。一つ目は、シーンとレベルを分けて考えるということです。シーンというのは、学校に行く前・学校の中にいる時間・放課後です。レベルは、トップとしては「小中一貫教育についてどう思いますか」という漠然とした問いかけ、具体化していった「小学生と中学生が一緒の学校にいたらどう思いますか」という問いかけです。「学校が一緒だったらどういうことができると思いますか」「どんな悩みが解消されると思いますか」というような問いかけも可能だと思います。どのシーンのどんなレベルの問いかけをするのか分けて考えることがポイントだと思います。

もう一つは「実際にそのシーンに出くわしてみる」「体感してみる」という具体的な交流の場を想定してやってみてはどうでしょうか。中学校の部活の時間に小学生が訪問するとか、小学校の運動会に中学生のチームが参加してみるとか。先ほど、小学生は他の学校を知らないというお話がありました。具体的なアクションを起こして、少しずつ体感する場を増やしていくと、その上で「もっとこんなことが出来る」という奇抜なアイデアが出るかもしれませんし、「ここはこうした方が良い」という提案もできるでしょう。

- （渡辺委員） 全体的なこととして、目指す子ども像、こういう教育を目指しますという方針を見せられたこと、またそれに対する意見交換会での反応は良かったと思います。教職員向けの研修会に出席して、今後課題をヒアリングしたり働きかけをしたりするなど課題はありますが、一つステップが見えたと感じました。

今後についてですが、学区についてですとか、放課後のグラウンドの共有のような施設の使い方をどうするなど、意見交換会で出た具体的な質問については、具体的な方向性を示していくことが必要ではないでしょうか。未就学児の保護者に対して説明会をすると、より具体的な設問が出てくるだろうとも思います

第2回の意見交換会をいつ頃設定するのかと、全体のゴールはいつ頃というのを確認しておきたいと思います。

- （教育長） グラウンドについてですが、すみ分けをしなければならないと思っています。部活動については部活動ガイドラインも検討中ですが、学童と部活動の共存をしようとすると、活動が難しい部活動も出てくるかもしれません。

例えば、一色小学校のグラウンドで部活動をやる時、野球やサッカーのような団体競技は難しいとか出てくるかもしれません。部活動の種類には指導する教員がいるかという問題もあることは御存じかと思いますが、学校ごとに部活動の種類を絞るとか、部活動の曜日を絞るようなことも考えられると思います。

案を提示する中で、考えて示していきたいと思います。

- （原委員） 全ての意見交換会で説明をさせていただきました。出席者の反応として、まず感じたのが、地域の皆さんが、「学校を中心としたコミュニティを崩すことに対する強い抵抗感がある」ということです。そこを正しく受け止めて、抵抗感にどう答えを出せばいいのかなと考えます。例えば、3つの小学校を残して一色小の単級化を解消するのであれば、二宮小と山西小の一部を一色小へ動かす、小中一貫校を作るときには中学校の学区も動かす、学区再編という方法が考えられます。「学校を中心としたコミュニティを崩されてはいやだ」という声をどう対応するのか、しっかりした考えがないと、2回3回意見交換会を開催しても同じことになると思います。反省点でもありますが、一案しか示されなかったことへの抵抗感もあったと感じました。

また、困ったなと思ったのですが、意見交換会の中で、具体的に「どこそこがなくなればいい」という発言があり、そこに「そうだそうだ」という同意が挙がりました。そういう意見が出てしまう説明だったのだなという反省があります。皆さんの地域は大切にし

ます。その上でこういう案を考えましたが、町全体を考えてどうですかという示し方でないと問題は解決しないでしょう。先ほど、この先の意見交換会やゴールについてのお話がありました。今ある案をがらがらと崩すくらいでないと、コミュニティの皆さんは納得されないと感じましたし、強引に進めれば、後々に禍根を残すだろうと思います。

方法は色々あると思いますが、今後については、とにかくコミュニティを大事にすることを基本中の基本として、意見を述べたいと思っています。

- （教育長） 意見交換会を一通りやってみて反省もしたのですが、いきなり「2校」という提案を出しましたが、3小学校区に一つは学校を残したいという強い雰囲気を感じました。

一色小学校に二宮西中学校が来ればいいじゃないかというご意見がありました。それをすると二宮西中学校の学区がいびつになるわけです。一色小学校の単級化を解消するところから始まっていて、一色小学校も大事にしてもらいたいと思いますし、山西小学校のことも大事にしたい。山西小学校と二宮西中学校でひとつの小中一貫教育校の学区として、一色小学校のところにボトムアップしたような義務教育学校を目指す案も考えられます。一色小学校を卒業する子どもが分かれることもなくなります。特化した個別支援教育ができることをメリットとする、教育特区という特色を打ち出す学校を作るという案もあるのかなど。学区を変更して単級化を解消するのが難しいのであれば、一色小学校を特区にしてしまうというやり方もあります。一部の地区はどちらの学校も選べますという方法を考えられます。

結論を急ぐわけではないのですが、単級を解消したいということが方針としてありますので、そこは早期に解消できる案にしていきたいという思いがあります。今年度中に案を示すことができれば、来年度次の動きに入れるでしょう。

- （原委員） 今、色々意見が出ましたから、「何をしなければいけないのか」「これからやろうとすること」を整理する必要を感じます。
- （教育長） そうですね。
- （原委員） 資料2のアンケートの結果ですが、参考にするのが難しいと思いました。「小中一貫教育を進めるべき」という意見は構成比としては49パーセントですが、「どちらともいえない」「再考すべき」をあわせると賛成を上回ります。中身がわからないと参考にできないと感じました。「どこが良いと思ったから進めるべき」というところがわからないので、「アンケートがこうだったからこうします」と、進めていく説得力としては弱いのではないかなと思いました。
- （山内委員） 今回の意見交換会を経て、「小中一貫教育」そのものについては、魅力的と前向きに受け止めて、「いいじゃない、やってみようよ」という気持ちになった方が多かったと思います。具体的なことになるとうーん、どうなっていくんだろうという雰囲気になって、「これからどうなっちゃうの」という不安が皆さんの中に沸き起こっているように感じました。コミュニティを大切にすることと同時に、町はどの方向に進

もうとしているから、その過渡期として今学校はこうなります、将来こうなります、ということが見えると納得できるのだと思います。「統廃合」「廃校」という言葉は後ろ向きになってしまいます。そうではなくて、町の子どもたちに良い教育の形ということで、単級を解消して、クラス替えもあって色々な人間関係を体験できる、学校を作りましようとするのが望ましいと思います。

ゆくゆくは小中学校が1校ずつになるとありますが、そのゆくゆくのときに「3小学校のひとつがなくなる」というような不公平性もなく、よい未来と捕らえられるようなビジョンがあると良いと思いました。

- （教育長） 二宮町の人口の予測を見ると、5つの学校は必要ない時代というのは必ずやってきて、過渡期を経た先にはひとつの小中学校、あるいは義務教育学校でしょう。そこまでの過渡期の今ということで、共通理解ができるといいなと思います。

コミュニティを大切にというお話が先ほどからありますが、5つの学校でコミュニティ・スクールを始めたところです。そのコミュニティを大事にしていこうとすると、今の学校の学区の一部をこちらの学校へという案、子どもたちを分散させる案は難しいという思いも、計画案の中にはありました。しかし、そこにこだわってしまうと、この先進まないのかなと思いました。学区のコミュニティが分かれて再編することはやむをえないことをご理解いただく必要があるのかなと感じています。

意見交換会の中で「山西小学校をなくさないで」「二宮西中学校を動かさないで」という声もありました。先ほども申し上げましたが、二宮小学校・二宮中学校はよいとして、山西小学校と二宮西中学校、一色小学校については変更の可能性があると思います。

- （山内委員） コミュニティ・スクールの主役は「スクール」だと思いますので、学校が主役・基点ということで、地域が変わっても学校を中心に活動をしていければよいのだと思います。
- （渡辺委員） 今後の方向性をどう示すのかということが、今とても大切なところだと思います。ここまで何年もかけてこの案をつくったわけです。一方で、ここでまっさらに一校新設したら良いんじゃないかとか新しい意見も出てきた中、どの方向に舵を切るのかはとても大事なことです。学校はコミュニティの核であり、町の中の大切な施設でもあります。何年もかけて作った案を覆すくらいの舵を切るのか、意を決するというのが、非常に悩むところです。
- （岡野委員） 意を決するために一度、全部の可能性を精査して横並びに判断した資料を作りましようということだと思います。それをやらなければ進んでいけません。評価項目を決めて、それぞれの案にどういう優劣があって、その「劣」になっているところには挽回策があるのか、決定的に挽回できないことなのか、まとめて一枚の紙で見比べるようなものを作りましよう。
- （原委員） 今までの会議の中で、コミュニティを崩すことについての論議が薄かったというのが、現時点で反省としてあります。その意味では、ここでゼロスタートしなければ

ばならないなと個人的には思います。

- （教育長） 色々な意見を出していただきました。次回、案のメリット・デメリットを並べたものをお示しして、また意見交換を進めましょう。
- （教育部長） 方向性は積み上げてきたものがあり、目指す目的にも変わりはないと思いますが、手法は色々あります。手法、選択肢を並べたものを示して、どれがより良い方向なのか示したいと思います。
- （教育総務課長） 次回は、意見の整理をして精査したものを示すこと、7～8案くらいあると思いますがそれを横並びにしたものを出すということによろしいでしょうか。
- （原委員） 教職員研修会でのアンケートもありますか？ あれば教員の意見を見てみたいと思いますが。
- （指導班長） アンケートはとっています。
- （教育長） 移動町長室がありますので、その際に経過をお話することもあると思いますので、ご承知おきください。

（3）二宮町立学校に係る部活動の方針（案）について

（教育総務課長）二宮町立学校に係る部活動の方針（案）について資料に基づいて説明し、9月上旬までに提案や意見を提出していただくよう委員に依頼。

- （原委員） 検討をしているメンバーは教員だけでしょうか。生徒が入っているのでしょうか。
- （教育総務課長） 各中学校の運動部・文化部から各1名と担当指導主事で検討しています。生徒は入っていません。
- （原委員） ちょっと心配なのですが、中学校の教員には熱心に「部活をやりたい」という方が多いですね。部活動の教育的な見地だけでなく、例えば医学的な見地からの意見というものもあろうかと思えます。最近野球の投球制限が話題になっていましたが、あれも賛否両論あるようです。ここでも賛否両論の意見が出ると思いますが、町として子どもの成長のどういうことを狙って部活動をやるのかをはっきり打ち出すべきだと思います。本当は医療の専門家に加わってもらえると良いと思うのですが、無理かと思えますのでデータをできるだけ示していただいて、子どもの立場で考えられるようお願いします。
- （教育総務課長） 医学的なところをどう盛り込むかというのは課題です。担当者会では、良い意味で部活動に対する考え方の差があると感じました。
- （原委員） 教育委員会としての考え方をしっかりと示した方が良いと思います。中学生は、成長の途上の身体です。明日の試合に勝つことを目指す子どもも、保護者もいるでしょうが、教育委員会としてはどうなのか。今は効率の良いトレーニング方法もどんどん開発されていますから、まず健康第一というのは町として示しておくべきではないでしょうか。

- （教育長） 休養日の設定について、週3日という案は私が出したものです。月曜日から金曜日の内1日しか休まないだろうということでしたが、平日は一日おき位の活動でよいのではないかと思い、担当者会で出してもらいましたが、「休もうとすれば休めるのだから、週2日の案で行きましょう」ということになりました。
野球のピッチャーも連投はしませんし、陸上選手など「大会のために休む」という話も聞きますので、そういったことも取り入れてほしいと思います。
- （渡辺委員） 中学校の入学式で先生を紹介するときに担当している部活を紹介されましたが、一人の先生が「卓球部と吹奏楽部と陸上部を担当しています」と、複数の部活の名前を挙げて、「担当している」と話されていました。とても驚き、どういう状況なのだろうと思いました。
- （教育総務課長） どちらの中学校とも、すべての先生で顧問を分担しているということです。他の業務の都合、出張などで部活動を見られないということもありますので、複数顧問の体制を取っているということでした。
- （教育長） 遠征などの際には、一人では引率できないということもあります。また、非常勤の先生は部活動をできませんし、出産を控えている方への配慮や、負担の軽減などもあります。
- （渡辺委員） 制度にあわせるためにそうしなければならないということでしょうか。
- （原委員） 一番考えなければならないのは生徒の安全面でしょう。遠征の際の安全対策はもちろんですが、文化部と運動部では、安全性という点では、運動部の方が日常的に危険度は大きいでしょう。先生方の休養日を取るという意味でも、複数配置は良いことだと思います。先生方の業務面での公平性にも関わると思います。
- （教育長） それでは、案に対しては、ご意見をよろしくお願いします。

（4）二宮町体育祭について

（生涯学習課長）二宮町体育祭について資料に基づいて説明。

（5）その他

- （山内委員） 「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」について、今年はとても盛況で、良い形になっていたと感じました。この形で続いていくと良いと思います。「つどい」に合唱で参加した一色小学校で、合唱指導のゲスト・ティーチャーをしました。指導の中で、平和教育に繋がるお話ができることは、とても良いものです。「つどい」には3小学校の6年生が輪番で参加していますので、6年生の年に当たらない子は一生当たりません。6年生の全員に体験してほしいなと思いました。リアルに同年代が体験したことをその年齢で学ぶことが大事だろうと思います。それから、開催はやはり8月5日当日が良いだろうと思いました。
- （教育長） 今年はラディアンが休館日のため8月6日に開催でした。来年は当日の開催

になると思われます。なお、来年は「つどい」の30周年の節目の年でもあります。

－ 傍聴者退席 －

4 付議事項

(4) 議案第17号 令和元年度二宮町一般会計補正予算(案)

－ 非公開 －

(5) その他

－ 次回教育委員会予定 －

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11時50分 閉会